

農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名:KEIHOKU Style

令和2年8月26日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
京都府 京都市	平成28年度	①Web啓発事業 ②インバウンド事業(里山コミュニティ・ツーリズム事業)	京北地域の暮らし、生き方、産業の魅力を地域ブランド「KEIHOKU Style」として創造し、発信する手段として、①Web企画「里山知新」において、京北の暮らしや観光情報を発信、②インバウンド事業として農家民宿事業・里山体験ツアー・里山スタディツアーを実施。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

<p>(評価コメント)</p> <p>WEBサイトにより京北の暮らしや観光や食事、職人等の情報を更新し、更に英語でも発信する事で外国人旅行者に対しても、京北地域の情報を発信する役割を果たした。また、外国人旅行者や日本、海外の学生に対して、京北地域を知る教育プログラムを数回実施した。しかし、事業実施計画で予定していた、「KEIHOKU Style」展を実施しておらず、売り上げ、雇用者数が低調であり、成果を上げているとは認められない。</p> <p>(指導・助言等)</p> <p>目標達成のためには、イベントや研修といった単発的な取組ではなく、持続可能な取組を行って京北地域の活性化につなげる必要がある。地域製品の開発・販路拡大や京北地域の魅力のある観光資源を活かした体験観光プログラム(パラグライダー、林業体験、そば打ち、貯木場のせり見学等)の開発・実施などを行い、交流人口の増加、売り上げの増加、雇用の増加に結びつくよう、地域の創意工夫により都市農村共生・対流及び地域活性化対策事業を推進されたい。</p>
--

2. 低調と評価された要因

<p>事業実績について、2年間取り組んだ「KEIHOKU Style展」の開催が終了したため、農林水産業の販売等の売上げの目標を大きく下回った(達成率0%)。また、インバウンド事業においても、体験ツアー等の情報発信が十分でなかったためツアー参加者が伸び悩み、交流人口は目標を大きく下回った(達成率48%)ことが主な低調の要因である。</p>
--

3. 目標達成に向けた方策

<ul style="list-style-type: none"> Web啓発事業において、京北の暮らしや観光情報などについて、2日に1回という高頻度でブログ記事を発信し、交流人口及び雇用の増加を図る。 インバウンド事業において、持続可能な取組とするため地域の魅力を肌で感じていただく・地域の観光コンテンツの拡充による地元事業者への利益還元というところに注力し、新たな体験プログラムの開発や既存のプログラムを見直すことで、交流人口及び売上の増加を図る。 地域で作られたアロマオイルのブレンドオイルをもとに、アロマディフューザーセットを開発し、売上の増加を図る。
--

4. 改善状況

<ul style="list-style-type: none"> インバウンド事業の受入れ(交流人口)は、平成30年度は114人だったが、平成31年度は599人(達成率250%)に増加した。 Web啓発事業及びインバウンド事業による売上げは、平成30年度は0円だったが、平成31年度は5,370,592円(達成率64%)と増加した。 KEIHOKU Styleの主要運営団体(里山デザイン・ルーツ)の雇用者数が、平成30年度まで5人だったが、平成31年に10人(達成率166%)に増加した。 <p>以上のように一定程度の改善が図られている。</p>

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:美山分散型ホテル協議会

令和2年8月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
京都府 南丹市	29年度	町全体がホテルであると考え、観光客が「町に暮らす」ような感覚を持ち長期滞在につながるよう、点在する宿泊、飲食、体験提供、農産物加工販売等をつなぎ、高い価値を一本化して町全体の魅力づくりを進め、情報発信を実施。 外国人向けホームページ作成、宿泊客の共同送迎システムの構築、体験メニュー開発、語学研修を実施。	町全体をホテルと考えたときの中心となる茅葺きチェックインセンターの改修。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)

事業実施計画にある一部の取組が実施できておらず、また、事業実績の売上げが2年連続で達成率70%未満となるなど、成果を上げられていると認められない。

(指導・助言等)

目標の設定と事業実績が低調となった問題点について分析を行い、分析結果を協議会の構成員間で共有するとともに、目標を達成するために施設整備事業により宿泊・体験施設を整備したことから、体験プログラムの整備や国内外への営業活動を引き続き実施しつつ、協議会の構成員及び地域の関連団体と連携し、地域への観光客の増加やそれに伴う売上げの増加に結びつくよう、地域の創意工夫により農泊事業を推進されたい。

2. 低調と評価された要因

売上げ(達成率63%)、宿泊者数(達成率61%)、雇用者数(達成率112%)と、一部の項目において目標達成ができなかった。売上げについては、昨年度が達成率62%であり、2年連続で達成率70%未満となったため、「C」評価となった。

宿泊者数、売上げ、雇用者数の目標については、施設整備事業により整備した施設に係る増加分を見込んでいたが、施設整備事業が次年度に繰越となったことが主な低調の要因である。

3. 目標達成に向けた方策

令和元年5月に前年度施設整備を実施した宿泊施設とチェックインセンターを開業するとともに、インバウンド向けのホームページを最大限に活用し集客を図る。

4. 改善状況

宿泊施設とチェックインセンターが令和元年5月にオープンし、インバウンド向けホームページから予約が順調に入り始めたところであった。

チェックイン機能や体験を行うといった地域全体に効果を波及する施設の整備が計画より1年遅れたことと、新型コロナの影響で、宿泊者数2,362人(達成率63%)、売上げ3,516万円(達成率67%)となっており、目標達成には至っていないが、一定程度の改善が図られている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:南山城村体験観光推進協議会

令和2年8月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
京都府 南山城村	29年度	農家民泊のノウハウを身につける村民を増やすことでホストファミリーを増大し、交流人口の増加を図るため、農業体験インストラクター養成講座の開業、特産品を生かした商品開発及び先進地視察等を実施。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)
計画どおり取組が実施されているが、事業実績は非常に低調なものとなり目標を大きく下回るなど、成果を上げていると認められない。

(指導・助言等)
目標の設定と事業実績が低調となった問題点について分析を行い、分析結果を協議会の構成員間で共有するとともに、新たな層の誘客に向けた地元調整、体験プログラム整備を迅速に取り組む、また、先進地視察等により地元体制づくりを加速させるなど、スピード感を持ちビジネス化を意識して農泊事業を推進されたい。

2. 低調と評価された要因

売上げ(達成率7%:農家民泊売上げ、一次産品加工商品売上げ)、農家民泊体験者数(達成率58%)、その他の項目として農家民泊受入農家数(達成率106%)と、ほとんどの項目において目標の達成ができず、非常に低調な実績となった。

農家民泊体験者数の試算の甘さ、体験料の設定単価と加盟した広域協議会の契約単価の違い及び一次産品加工品の商品化が遅れたことなどが、主な低調の要因である。

3. 目標達成に向けた方策

農家民泊体験者数については、近隣の町(和束町、笠置町)と教育旅行受入の一本化、旅行代理店への営業活動等を実施して集客を進める。

また、受入単価の高い、中国からの教育旅行を受入れて、売上げを増加させるとともに、旅館業法に基づく簡易宿所の許可を5~6軒取得してもらう計画である。

4. 改善状況

中国(山東省、広東省、湖南省)からの教育旅行を受入れたこと等により、令和元年度における協議会に参画する宿泊施設における延べ宿泊者者(農家民泊体験者数)は130人(達成率43%)、売上げは1,311千円(達成率49%)となっており目標達成に至っていないが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年1月からは、宿泊・体験の予約が入っておらず、イベントも実施できていない状況において、一定程度の改善が図られている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:地域資産活用協議会

令和2年8月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
兵庫県 丹波篠山市	29年度	農都・篠山を表現するにふさわしい「食と器」をテーマに、丹波篠山市内の農山村地域での滞在体験をデザインし、ソフト・ハード一体となった拠点開発のために、核となる既存施設を拠点にインバウンド戦略を展開する体制整備、企画を実施。 広域展開に向けた取組、中核人材候補育成に取組を実施。	古民家2軒を宿泊・レストラン施設及びクラフトビール工房兼ビアパブ施設に改修。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

<p>(評価コメント) 計画された取組は実施されているが、事業実績が非常に低調なものとなり目標を大きく下回るなど、成果を上げていると認められない。</p> <p>(指導・助言等) 目標の設定と事業実績が低調となった問題点について分析を行い、分析結果を協議会の構成員間で共有するとともに、目標を達成するために施設整備事業により宿泊・食事提供施設を整備したことから、体験プログラムの整備や国内外への営業活動を引き続き実施しつつ、協議会の構成員及び地域の関連団体と連携し、地域の観光客の増加やそれに伴う売上げの増加に結びつくよう、地域の創意工夫により農泊事業を推進されたい。</p>
--

2. 低調と評価された要因

<p>売上げ(達成率33%)、宿泊者数(達成率52%)とすべての項目において目標が達成できず、非常に低調な実績となった。 古民家改修等の施設整備が当初計画より期間を要したため、宿泊施設としての開業が遅れたことが、主な低調の要因である。</p>

3. 目標達成に向けた方策

<p>農村での滞在体験の具体的な価値化とその価格設定及びプロモーションの強化(主にインバウンド向け)を実施する。また、当該事業で整備し、平成30年10月にオープンした「福住宿場町ホテルNIPPONIA」の近くにビール工房(飲食スペース付き・古民家活用)も整備し、令和元年7月にオープンして集客を図る。 また、ローカルガストロミーの推進による生産者と事業者の連携強化を図る。</p>
--

4. 改善状況

<p>売上げは15,948千円(達成率26%)及び宿泊者数は285人(達成率14%)といずれも目標値を大きく下回っている。要因としては、稼働率が計画より低く、施設のターゲットが曖昧で潜在的な顧客にアプローチすることができていないこと及び新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。 このため継続して重点指導を行っていく。</p>

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:やまと観光推進協議会

令和2年8月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
奈良県 山添村	29年度	主要観光都市にはない、ゆっくりとした時間と少ない観光客、道案内会話だけではない日本人と直のふれあいができる場所としての農泊の魅力を広く国内外に発信するため、多言語サイトを構築するとともに、農泊を推進するために必要な人材を育成を実施。 具体的には、受入体制の整備、体験メニューの開発、ホームページの広告、イベント開催、旅行会社等への営業活動、広報要写真撮影及び事業推進のための専門家受入等を実施。	古民家の母屋及び離れを宿泊施設、交流施設に改修。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント) 事業実施計画に沿って概ねの取組は実施されているが、事業実績は非常に低調なものとなるなど、成果をあげていると認められない。 (指導・助言等) 目標の設定と事業実績が低調となった問題点について分析を行い、分析結果と協議会の構成員間で共有するとともに、目標を達成するために施設整備事業により宿泊・体験施設を整備したことから、体験プログラムの整備や国内外への営業活動を引き続き実施しつつ、協議会の構成員及び地域の関連団体と連携し、地域への観光客の増加やそれに伴う売上げの増加に結びつくよう、地域の創意工夫により農泊事業を推進されたい。

2. 低調と評価された要因

売上げ(達成率4%)、宿泊者数(達成率19%)、雇用者数(達成率100%)、山添村地域の体験コンテンツ参加者数(達成率39%)と、ほとんどの項目で目標を達成できておらず、非常に低調な実績となった。 古民家改修等の施設整備が当初計画より期間を要したため、宿泊施設としての開業が遅れたことが、主な低調の要因である。
--

3. 目標達成に向けた方策

中核法人が実施している施設整備を早期に完了させ開業する。また、同法人がインバウンド客の誘致に強いことから中国からの教育旅行に注力するとともに体験プログラムを整理し、旅行会社に提案を行う。

4. 改善状況

2か年に渡り実施した施設整備が完了し、令和2年3月に開業した。また、新たな宿泊事業者が協議会へ参画し、イギリス旅行社のお茶摘み体験&農家さん宅訪問ツアーの誘致、中国の教育旅行民泊の誘致、これらの対応に伴う雇用の発生があり、新型コロナウイルスの影響を受けるなか、売上げ(達成率2,753%)、宿泊者数(達成率291%)、雇用者数(達成率2,500%)、体験メニュー参加者数(達成率240%)となっており、改善が図られている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名:串本町古民家活用協議会

令和2年8月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
和歌山県 串本町	29年度	古民家等を観光資源化することで、地域の歴史・文化を発信の一助とし、恵まれた自然美と豊かな海産物を活用すべく「食と観光」をコンセプトとして滞在体験をデザインするため、受入体制の整備、地域食材を活用した新メニューの開発、インバウンド対策としてのWebサイトの翻訳などを実施。	古民家(稲村亭)を2棟3室の宿泊施設とレストランに改修。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

(評価コメント)
人材活用事業を除き、計画どおり取組が実施されているが、事業実績は非常に低調なものとなり目標を大きく下回るなど、成果を上げていると認められない。
(指導・助言等)
目標の設定と事業実績が低調となった問題点について分析を行い、分析結果を協議会の構成員間で共有するとともに、目標の達成するために施設整備事業により宿泊施設等を整備したことから、体験プログラムの整備や国内外への営業活動を引き続き実施しつつ、協議会の構成員及び地域の関連団体と連携し、地域の観光客の増加やそれに伴う売上げの増加に結びつくよう、地域の創意工夫により農泊事業を推進されたい。

2. 低調と評価された要因

売上げ(達成率10%(宿泊、物販)、物販利用者数(達成率10%)と、すべての項目において目標の達成ができず、非常に低調な実績となった。
2年目に宿泊とレストランを同時に開業することとしたため、事業実績を伸ばすことができなかったことが、主な低調の要因である。

3. 目標達成に向けた方策

NIPPONIAの施設間でお互いの宿泊施設のPRを実施し、集客に努め、アクティビティとの連携においては、協議会に参画する南紀串本観光協会を起点に地域内事業と協業を図る。
また、レストランの利用人数を増やすために、料理人を増やし、ランチや宴会などにも対応できるように運用を進める。

4. 改善状況

令和元年7月から宿泊施設等が開業し、宿泊、レストラン及びカフェは地域内外の方に少しずつ認知度が高まっているが、開業時期が遅れたため、全体の営業日数の減少や繁忙期に向けた告知への影響もあり、宿泊の売上げ8,067千円(達成率23%)、宿泊利用者数337人(達成率36%)、物販の売上げ6,982千円(達成率69%)、物販の利用者数3,943人(達成率97%)に留まっている。
また、インバウンド等のミドルアッパー層をターゲットに推進しており、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け2月以降のほとんどの予約がキャンセルとなっている中で、現在できる対策として、売上げ確保のために未来チケットの販売やクラウドファンディングなども実施されているところであるが、継続して重点指導を行っていく。